

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970101745		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム 甲府増坪		
所在地	山梨県甲府市増坪町 338		
自己評価作成日	平成29年10月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成29年11月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【その人が送りたいように送る】を合言葉に、全職員一丸となり取り組んでおります。利用者様それぞれの生活スタイルに合わせた支援を行い、ストレスなく生活を送れ、やってみたい事・やりたい事の実現に向け取り組んでいます。また、利用者様が健康的に変わらない生活を長く送っていただけることを目指し、医療との連携を密にしております。変化時に早期対応を心がけ健康増進を図っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は甲府の南東に位置し、住宅と田畑に囲まれて見晴らしの良い環境にある2階建ての2ユニットの建物である。事業所の近くには協力病院でもある市立総合病院や個人の専門病院、調剤薬局もあり医療面で安心がある。事業所は1階、2階共に日中はどこかの出入り口も施錠がされておらず、自由に外へ行くことができ、庭に洗濯物や果物を採りに行くなど、事業所理念でもある「利用者主体の生活を送る事」を目標とした環境が整えられている。利用者の意向を尊重して、パチンコ、珈琲店、文化教室に通う等、職員が見守りしながら外出しており、利用者はリフレッシュできて満足している。その人らしく暮らし続けられるよう日々の支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 **愛の家グループホーム 甲府増坪**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(まねき猫)	ユニット名(ふくろう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝礼時に皆でMCS愛の家運営理念の唱和を行っている。	毎朝、朝礼の際に復唱しておりスタッフ全員で理念を共有している。	事務所に本社の理念が掲示されており、職員の意識づけを行っている。また、事業所独自の理念として「入居者が送りたい生活を送る」を掲げ、毎月の全体会議時に唱和し、理念がケアに反映されているか職員全員で確認し、日々の支援に繋がるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	日常的ではないが、大根やとうもろこしなどホームに届けてくれるなどの交流が来ている。	地域の方がボランティアとして入居者様を訪ねてきて下さり、利用者様の趣味に付き合いがある。	自治会は賛助会員となっている。自治会長から年間行事への招待を受け、どんど焼き、納涼祭等に参加している。地域の農家から野菜が届けられたり、地域在住のボランティアが将棋の相手をしてくれたり、事業所の運動会に地域住民が参加してくれることもあり、地域とのつながりが少しずつ増えてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターの実施をするなど、地域に認知症の理解を進める実践をとっている。	認知症サポーターの実施をするなど、地域に認知症の理解を進める実践をとっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度のペースでホームの様子を報告し参加者から意見を聞いて運営に活かしている。	2ヶ月に1度のペースでホームの様子を報告し参加者から意見を聞いて運営に活かしている。	偶数月の第3火曜日17時から18時に開催している会議には、利用者家族、自治会長、地域包括支援センター職員、他のGH管理者が交流を兼ねて参加している。事業所からの報告とともに参加者から質問、意見、要望を受けている。食事内容や入浴の様子が知りたいとの意見があり毎月のお便りで報告するようにした。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターと連携し、地域に役立つ施設の取り組みを実施している。	地域包括支援センターと連携し、地域に役立つ施設の取り組みを実施している。	市の地域包括支援センターには毎月出向いて運営推進会議の案内を渡している。地域包括ケアシステムについて、地域の施設としての役割についても検討しており、介護相談員の受入れや、地域のボランティア養成講座の受講生の実習受入れもやっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内や愛の家合同研修で研修を行っている。玄関の開放・身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、メディカルケアサービスの一事業所として、定期的に身体拘束の研修を実施している。	ホーム内や愛の家合同研修で研修を行っている。玄関の開放・身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、メディカルケアサービスの一事業所として、定期的に身体拘束の研修を実施している。	毎月の合同研修の内容に身体拘束も含まれている。本社から身体拘束についての動画の資料が届き、それを基に研修を行っている。職員の言葉かけで気になる事は直ぐに言い回しの注意をする様にしている。玄関や出入り口の施錠はしないで、利用者のアセスメントや見守りで安全面に配慮した生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	メディカルケアサービスの一事業所として、定期的に虐待に対する研修を実施している。	メディカルケアサービスの一事業所として、定期的に虐待に対する研修を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を利用されている方は居ないが、研修の機会を作りスタッフが学ぶ機会を作っている。	現在、制度を利用されている方は居ないが、研修の機会を作りスタッフが学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際、最低でも2時間掛け管理者が説明し、事業所への理解を得ている。入居相談の際にも不安な点、要望を確認し事業所として出来る・出来ない事を十分に理解して頂いた上で入居を検討して頂けるよう努めている。	契約締結の際、最低でも2時間掛け管理者が説明し、事業所への理解を得ている。入居相談の際にも不安な点、要望を確認し事業所として出来る・出来ない事を十分に理解して頂いた上で入居を検討して頂けるよう努めている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 **愛の家グループホーム 甲府増坪**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(まねき猫)	ユニット名(ふくろう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者・家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、家族アンケートを行い意見を聞いている。その中から課題点をあげ取り組んでいる。運営推進会議に利用者・家族・自治会長・包括支援センターの職員が参加され意見を聞いている。	毎年、家族アンケートを行い意見を聞いている。その中から課題点をあげ取り組んでいる。運営推進会議に利用者・家族・自治会長・包括支援センターの職員が参加され意見を聞いている。	家族等が面会に来た際にも、何でも相談してもらえるよう、声をかけている。そこで出された意見は職員間で共有し、利用者への支援に反映するようにしている。身体状況等の相談があった場合は具体的な対応への提案をしている。足の浮腫みの相談では、訪問マッサージを取り入れることで状態が軽減された。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議だけではなく普段からコミュニケーションをとり少しでも意見を言いやすい雰囲気作りに努めている。	ユニット会議だけではなく普段からコミュニケーションをとり少しでも意見を言いやすい雰囲気作りに努めている。	本社から職員に対するアンケートを行っている。内容は事業所にフィードバックされ、対応に反映している。管理者は年1回職員とのヒヤリングのほか、随時意見を聞いている。職員の希望を聞いて、それぞれの役割を活かせるよう、意欲を引き出すことに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を重視しながら資格を活かせる職場環境作りに努めている。	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を重視しながら資格を活かせる職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議・合同研修を行い参加出来るように案内している。外部研修は回覧板で周知し参加を確認している。	全体会議・合同研修を行い参加出来るように案内している。外部研修は回覧板で周知し参加を確認している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	合同研修会や外部の研修等があれば案内を回覧し出席を促している。参加したいものがあれば、シフト調整を行い参加の機会を工夫している。毎週木曜日は地域交流活動の日と決め活動をしている。	合同研修会や外部の研修等があれば案内を回覧し出席を促している。参加したいものがあれば、シフト調整を行い参加の機会を工夫している。毎週木曜日は地域交流活動の日と決め活動をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から会える機会を作りアセスメントとして本人の困っている事や不安・要望などを聞きながら関係作りをしている。	入居前から会える機会を作りアセスメントとして本人の困っている事や不安・要望などを聞きながら関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から会える機会を作りアセスメントとして本人の困っている事や不安・要望などを聞きながらサービスの導入を行っている。	入居前から会える機会を作りアセスメントとして本人の困っている事や不安・要望などを聞きながらサービスの導入を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談等、ご家族やご本人の思い、状況などを確認し改善に向けた支援の提案を行っている。	相談等、ご家族やご本人の思い、状況などを確認し改善に向けた支援の提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活しているということを基盤に、ホームの一日を互いに支えあうようにしている。	生活しているということを基盤に、ホームの一日を互いに支えあうようにしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **愛の家グループホーム 甲府増坪**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(まねき猫)	ユニット名(ふくろう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を共に支えあう家族との絆作りとして、お花見や運動会、納涼祭などの行事に参加して頂き、一緒に楽しんでいる。面会時にも職員から声を掛け互いの思いを伝え協力関係を築いている。	本人を共に支えあう家族との絆作りとして、お花見や運動会、納涼祭などの行事に参加して頂き、一緒に楽しんでいる。面会時にも職員から声を掛け互いの思いを伝え協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで関わっていた馴染みの関係者が訪ねてくることもあり、継続して関係が作れるように支援している。	ボランティアがその場で終わらず、そこから関係が出来て馴染みの関係に発展できるように支援している。	入居前に洋服を買っていた店の人が様子を見に来てくれることがあるなど、馴染みの関係が続くよう支援している。理容室に行ったり、お墓参りに行くこともあり、以前利用していた施設を訪ねたり、昔からの友人が訪ねてくれることもある。自宅に毎週外泊したりする人もあり、地域との関係が途切れないようにしている。ボランティアの訪問も継続してある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り会話の架け橋をしたりユニットに関係なく気の合う入居者同士関われる環境作りを努めている。	職員が間に入り会話の架け橋をしたりユニットに関係なく気の合う入居者同士関われる環境作りを努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても面会に行くなどその後の様子や経過を把握しようとしている。	利用が終了しても面会に行くなどその後の様子や経過を把握しようとしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で笑顔になる時や安心した表情を見て、想いや意向を汲み取るようにしている。本人の性格や生活層も考慮しながら関わっている	日々の関わりの中で笑顔になる時や安心した表情を見て、想いや意向を汲み取るようにしている。本人の性格や生活層も考慮しながら関わっている	日常の関わりの中で、声をかけた際の言葉や表情から意向を汲み取っている。意思を言えない人に対しては表情で察したり、家族からの情報や、生活歴の中から思いや意向を汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族・関係者の方から聞き取りを行っている。普段の会話やふとした時に出る言動を観察しそれまでの経緯・生活の名残を理解し支援にあたっている。	本人や家族・関係者の方から聞き取りを行っている。普段の会話やふとした時に出る言動を観察しそれまでの経緯・生活の名残を理解し支援にあたっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアやユニット会議でその人の出来る事に着目し負担のない生活を支援している。	日々のケアやユニット会議でその人の出来る事に着目し負担のない生活を支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族にニーズを聞いて反映できるよう取り組んでいる。職員同士普段から話し合いカンファレンスなど意見交換してケアプラン作成に努めている。	本人や家族にニーズを聞いて反映できるよう取り組んでいる。職員同士普段から話し合いカンファレンスなど意見交換してケアプラン作成に努めている。	家族から管理者とリーダーが聞き取りしたことを基に暫定プランを作成し、その後、3か月毎に主治医や訪問看護師からの意見も取り入れ、見直しを行っている。ユニット毎にカンファレンスの日が決められており、目標や状態に変更があった場合は、その都度モニタリングし、介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルに記録を記入し、スタッフ間の共有が出来それを実践に生かしている。	個人ファイルに記録を記入し、スタッフ間の共有が出来それを実践に生かしている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 **愛の家グループホーム 甲府増坪**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(まねき猫)	ユニット名(ふくろう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の様子に応じ事前に家族へ連絡をとりホームでの受診対応を行っている。	入居者の様子に応じ事前に家族へ連絡をとりホームでの受診対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に出来るだけ参加し、楽しみを作っている	地域の行事に出来るだけ参加し、楽しみを作っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	その方の今までのかかりつけを大切に、入居後も受診できる環境を作っている。家族や本人の希望により往診を受けたり今までのかかりつけ医に家族が行けない時は対応し適切な情報を伝えている。	その方の今までのかかりつけを大切に、入居後も受診できる環境を作っている。家族や本人の希望により往診を受けたり今までのかかりつけ医に家族が行けない時は対応し適切な情報を伝えている。	入居前からのかかりつけ医や往診医を本人や家族の希望で受診している。かかりつけ医の受診は家族または職員が同行し、受診の際情報交換を行っている。訪問歯科も必要時に受診している。訪問看護師が毎週木曜日に利用者の健康管理や摘便等、必要とされる処置を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間の様子を記録に記入して経過含め相談しアドバイスをもらいながら適切な対応に努めている。	1週間の様子を記録に記入して経過含め相談しアドバイスをもらいながら適切な対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	関係者との情報交換や家族との相談を行い事業所でも対応できる範囲で入退院の支援を行っている。入院して認知症状が進まないことを前提に話し合い家族にも理解を求め意向を確認しながら対応している。	関係者との情報交換や家族との相談を行い事業所でも対応できる範囲で入退院の支援を行っている。入院して認知症状が進まないことを前提に話し合い家族にも理解を求め意向を確認しながら対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状況と家族の思いなどを踏まえ十分に話し合い重度化や終末期に向けた方針を決めている。また、主治医とも連携し、事業所ですることができることを実施できるように努めている。	本人の状況と家族の思いなどを踏まえ十分に話し合い重度化や終末期に向けた方針を決めている。また、主治医とも連携し、事業所ですることができることを実施できるように努めている。	看取りについては入居時に家族に説明し、契約書にも記載しており、希望により看取りを実施している。重度化したり急変時の時は病院対応をする時もあるが事業所に戻りたいとの希望があった場合は受入し、看取りを実施することがある。看取りに対する職員研修はカリキュラムとして実施しており、本社からの研修資料を活用している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議時に研修を通し、マニュアルの再確認と初期対応の確認の場を設け実践できるようにしている。	会議時に研修を通し、マニュアルの再確認と初期対応の確認の場を設け実践できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署協力のもと、消化器の取り扱い方法など指導を受けている。半年に1回昼夜想定避難訓練を行っている。	消防署協力のもと、消化器の取り扱い方法など指導を受けている。半年に1回昼夜想定避難訓練を行っている。	年2回消防署立会いで防災訓練を実施し、消火や通報システム、避難方法の正しいアドバイスを受けている。昼夜の避難方法についてはシミュレーションで確認し合っている。職員連絡網で緊急時の体制を確認したり、近くの市立病院で行うトリアージ訓練に参加している。また、事業所が地域の避難場所になっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手を尊重した声掛けや、その場その時に合った声の大きさや言い回しに努めている。利用者はお客様という意識で自分たちは介護というサービスの職員であると認識している。	相手を尊重した声掛けや、その場その時に合った声の大きさや言い回しに努めている。利用者はお客様という意識で自分たちは介護というサービスの職員であると認識している。	トイレ誘導時の声掛けの際、プライバシーに配慮し、個人名が周囲に伝わらないよう気配りをしている。普段は名字で呼ぶが、本人の意向に添った声掛けしている。また、居室のドアをノックし応答で開閉したり、利用者を尊重した対応をしている。利用者の個人ファイルは記録時以外は管理し、保存されている。	

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 **愛の家グループホーム 甲府増坪**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(まねき猫)	ユニット名(ふくろう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が選択できるような声掛けに努め意向にあった支援に努めている。	入居者が選択できるような声掛けに努め意向にあった支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者それぞれの生活リズムや習慣を大切にしている。	入居者それぞれの生活リズムや習慣を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服など一緒に選び、本人の意思に任せながら声掛けを行い支援している。訪問美容を利用し定期的な髪のカットをしている。男性入居者は近くの理容店へ出向けるよう支援している。	服など一緒に選び、本人の意思に任せながら声掛けを行い支援している。訪問美容を利用し定期的な髪のカットをしている。男性入居者は近くの理容店へ出向けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、ご飯とみそ汁は各ユニットで行う。毎週土曜日はフロア調理として食事を作っている。一緒に食事作りを楽しみ雰囲気作りにも努めている。フロアで作れそうなメニューは積極的に作っている。	毎食、ご飯とみそ汁は各ユニットで行う。毎週土曜日はフロア調理として食事を作っている。一緒に食事作りを楽しみ雰囲気作りにも努めている。フロアで作れそうなメニューは積極的に作っている。	献立は本社が作成しており、食材は事業者ごとに買物を行っている。専門の調理スタッフがいるが、調理、配膳下膳を利用者と一緒に行い、調理スタッフが休みの土曜日は、職員と利用者で調理をしている。嗜好は事前に聞いておき、献立を嗜好に応じて変更する時もある。2か月に1回程度は外食も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録表に食事・水分摂取量を記入している。補助食品が必要な方は適宜提供をしている。お茶の時間にはその人に合った物を提供している。	個人記録表に食事・水分摂取量を記入している。補助食品が必要な方は適宜提供をしている。お茶の時間にはその人に合った物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の促しを行い、介助が必要な人には職員が援助している。	毎食後の促しを行い、介助が必要な人には職員が援助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を利用し1人1人の排泄パターンを把握し出来るだけ自立に向け援助している。また、排泄用具の必要性をフロア会議などで話し合い、使用を減らす検討を実施。	排泄表を利用し1人1人の排泄パターンを把握し出来るだけ自立に向け援助している。また、排泄用具の必要性をフロア会議などで話し合い、使用を減らす検討を実施。	排泄チェック表を活用し、トイレ誘導をしている。利用者のほとんどが布パンツを利用できるようになった。リハビリパンツ利用者も布パンツに変更できるよう、排泄リズムを見極めている。必要時には、家族からの排泄への聞き取りも行い、フロア会議で自立に向けた検討をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	センナ茶や水分摂取で自然な排便ができるよう、水分が摂れるを工夫している。	センナ茶や水分摂取で自然な排便ができるよう、水分が摂れるを工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそって支援をしている	時間・曜日を決めず出来るだけ本人の希望に合わせてるように支援し、個人によっての声掛けをしている。また、出来る部分の把握をし、自立し自由な入浴ができるように援助している。	時間・曜日を決めず出来るだけ本人の希望に合わせてるように支援し、個人によっての声掛けをしている。また、出来る部分の把握をし、自立し自由な入浴ができるように援助している。	毎日入浴できる準備はしている。本人の生活状況に合わせてシャワー浴など入浴方法を定めることができ、本人の希望によって週の入浴回数が違っている。同性介護の対応もしている。自分で入浴できる人には見守り程度で入浴してもらっている。衣類を脱いでいる時を利用し、脱衣室で体重を計るようになっている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 **愛の家グループホーム 甲府増坪**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(まねき猫)	ユニット名(ふくろう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活パターンを知り、その日の活動も踏まえながら日中休息したり、不安や混乱がある方にも安心してできる声掛けをして安眠できるように支援している。	生活パターンを知り、その日の活動も踏まえながら日中休息したり、不安や混乱がある方にも安心してできる声掛けをして安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルに従い行っている。声だし確認・取り忘れ防止など誤薬を防いでいる。内服の変更は周知し様子観察を行い主治医に情報を提供している。	服薬マニュアルに従い行っている。声だし確認・取り忘れ防止など誤薬を防いでいる。内服の変更は周知し様子観察を行い主治医に情報を提供している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じて支援を行いその人に合った生活リズムで調理や外出支援を行っている。気分転換のドライブによく出掛ける。	個々の能力に応じて支援を行いその人に合った生活リズムで調理や外出支援を行っている。気分転換のドライブによく出掛ける。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様との外出や外泊を実施。また、本人の希望を把握し、希望に沿って外出が出来るように工夫している。	ご家族様との外出や外泊を実施。また、受診や買い物等、本人の希望に沿った外出が出来るように関わっている。	日常的に散歩や庭のベンチでの外気浴をしている。毎週自宅に帰る方は、家族送迎で帰宅している。馴染の店への買物も家族や職員で対応しており、利用者によっては文化教室に毎月通っている人もいる。パチンコや珈琲店に行きたいと希望があれば、職員と一緒に外出している。本人の希望を普段から聞いて、意向に添った外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動バン屋で好きなものを選んでいただき支払いが出来る方の見守りを行う。小銭で支払う方、札で済ます方など能力に応じた対応に心掛けている。	移動バン屋で好きなものを選んでいただき支払いが出来る方の見守りを行う。小銭で支払う方、札で済ます方など能力に応じた対応に心掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訴えがあれば事務所で電話をかける。能力に応じた支援を行っている。ハガキを渡したり郵便局に向いたり、本人と確認をとりながら応じた対応を行っている。	訴えがあれば事務所で電話をかける。能力に応じた支援を行っている。ハガキを渡したり郵便局に向いたり、本人と確認をとりながら応じた対応を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく、清潔感や季節感が感じられるよう工夫をしている。頻りに使うものは目に届く場所に置いたり、季節の物を飾り、季節が分かりやすくなる工夫を実施している。	明るく、清潔感や季節感が感じられるよう工夫をしている。頻りに使うものは目に届く場所に置いたり、季節の物を飾り、季節が分かりやすくなる工夫を実施している。	通路の壁には季節に合わせた展示物が掲示されており、行事や普段の生活している様子の写真が展示されていて外来者にも生活の様子が一目で分かる。トイレ入口は使用中・空室の札があり、外見からも使用状況が直ぐ分かる。また、出入り口から畑に出られるため、気軽に作物を収穫することもでき、過ごしやすい環境がつけられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者が居られるテーブル配置や廊下にソファを置き、ちょっと腰掛けて雑談が出来るなどそれぞれが違う時間を共有できるようにしている。	気の合う者同士くつろげるよう配置を考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで本人が使用していた物や衣類を持ち込んでもらい自宅にいる感覚がだせるようにしている。また、特に入居時にはなじみの物があることで、混乱や不安を少なくできるように対応している。	今まで本人が使用していた物や衣類を持ち込んでもらい自宅にいる感覚がだせるようにしている。また、特に入居時にはなじみの物があることで、混乱や不安を少なくできるように対応している。	エアコンと洗面台が備付られており、自宅で使用していた家具(単筒、テーブル、椅子、仏壇、電気ポット、ベッド他)を持ち込んで、自宅で生活しているような雰囲気が各居室でつくられている。利用者が自室でくつろげられるよう、居心地の良い空間がつけられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ドアは施錠せず自由に出入りできるようにしている。トイレの表等、自分で判断し納得して動ける環境作りを行っている。	ドアは施錠せず自由に出入りできるようにしている。トイレの表等、自分で判断し納得して動ける環境作りを行っている。		